

P1-050

知的障害特別支援学校小学部における学校医検診の工夫と配慮

野田 智子¹⁾、藤沼 小智子²⁾埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科¹⁾、
東京医科大学 医学部 看護学科²⁾

【はじめに】知的障害の児童は、自己の意思を相手に伝達することが難しく、自らの身体の不調を訴えることが困難である。このため、定期健康診断における学校医検診によって児童の健康状態を把握することは、児童が健やかな学校生活を送る上で重要となる。しかし、病院の雰囲気や白衣、医療機器に恐怖心を抱きやすく、児童が学校医検診を受診するには合理的配慮が必要とされる。

【目的】知的障害特別支援学校小学部における学校医検診の工夫と配慮を明らかにする。

【用語の定義】定期健康診断において、学内教員以外の学校医が来校して行う内科検診、眼科検診、耳鼻科検診、歯科検診、業者が来校して行う循環器検診（以下、心電図検査とする）の5項目を学校医検診とした。

【方法】全国の知的障害特別支援学校607校の小学部において健康管理を担当している者に質問紙調査を実施し337校から回答があった（回収率55.5%）、この中で、「学校医検診受診の工夫と配慮」の質問に自由記述のあった119校（回答率35.3%）のデータを質的に分析した。分析は、文章を意味内容に基づいて文節ごとに区切りコードとし、コード間のまとまりごとにサブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。

【倫理的配慮】本研究は、研究代表者の所属機関における倫理審査委員会の承認後に実施した。本研究において開示すべきCOIはない。

【結果】以下、カテゴリーを<>、サブカテゴリーを『』で示す。学校医検診受診の工夫と配慮として、<雰囲気を経験させる><検診をイメージさせて理解を促す><始まりから終わりまでの見通しを持たせる><刺激を避けて集中させる><落ち着かせて安心させる>の5カテゴリーが抽出された。知的発達の遅れによって何が起こるかわからないことから生じる恐怖心には『器具に触れる』『模擬練習』で<雰囲気を体験させる>、『視覚説明』で<検診をイメージさせて理解を促す>といった工夫と配慮を行い、児童の心理的準備を促していた。また、『受診体位の工夫』『実施場所の工夫』『待機場所の確保』などの環境調整により、児童を<落ち着かせて安心させる>ための工夫と配慮も行っていた。さらに、知的障害に重複する発達の歪みには『流れの構造化』『時間の構造化』『場所の構造化』で<始まりから終わりまでの見通しを持たせる>、発達の偏りには『視覚刺激の遮断』『聴覚刺激の遮断』で<刺激を避けて集中させる>ための工夫と配慮を行っていた。

P1-051

在宅で重症心身障害児を養育する家族と医療スタッフに向けた『家族エンパワメント啓発パンフレット』作成の試み

涌水 理恵¹⁾、壹岐 聡恵²⁾、後藤 あゆみ²⁾、桑原 雛子²⁾、市川 睦³⁾、藤岡 寛³⁾筑波大学 医学医療系 保健医療学域¹⁾、
筑波大学大学院 人間総合科学研究科 看護科学専攻²⁾、
茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科³⁾

【背景と目的】家族エンパワメントは、“児を養育する家族が、他の家族達、医療／福祉サービスの提供者達、地域の人々や行政の担当者達と協力して生活を調整する力”を指す。在院日数の短縮化や核家族化が進行する中、在宅で重症心身障害児（以下、重症児）を養育する家族の家族エンパワメントを高める必要性は増している。本研究では、当該家族とサービス提供者達にそのヒントを知ってもらうためのツール作成を試みた。

【方法】2019年1～3月、Korenら（1992）が開発し涌水ら（2010）が和訳した“障害児を養育する家族のエンパワメント測定尺度”の34項目を基に、家族エンパワメントを高めるためのヒントイラスト集を作成した。2019年7～9月、A県内の2医療機関に通院する当該家族と所属する医療スタッフを対象に、ヒントイラスト集の内容妥当性（1.文章のわかりやすさ、2.イラストのわかりやすさ）と内容重要度に関する評価（7段階）とコメントを質問紙調査により得た。評価とコメントは項目ごとに集計し、妥当性と重要度が低い項目は削除し、コメントをもとに文章やイラストの再改編や類似項目の統合を行った。本研究は大学の倫理委員会ほか2医療機関のIRB承認を得て実施した。

【結果】当該家族から主たる養育者21人と、2施設に所属する医療スタッフ73人が調査対象となった。主たる養育者は全て女性で年齢は40歳未満／以上で半々、重症児は男女比3対7で10歳未満／以上で半々だった。スタッフは2施設とも男女比約1対6、40歳未満が約6割で、職種は看護師が半数、医師/PT/OT/その他が残りを含め臨床経験年数は12年未満／以上で半々だった。34項目中、29項目は内容妥当性（前述1.2.）と内容重要度に関する評価が中央値（4点）を跨がず、コメントも「シンプルでわかりやすい」「行政にまで目を向けられるような示唆も含み素晴らしい」等、内容を支持する評価と記述が得られた。一方、5項目は家族／スタッフの評価が4点を跨いだため、文章／イラストを再検討し改編や項目統合を行った。結果、23項目へ項目数は削られた。

【考察】当該家族だけでなく、医療スタッフにも理解しやすい内容の文章とイラストが必要最低限に網羅された『家族エンパワメント啓発パンフレット』が作成できたと考える。本パンフレットを今後、自治体の障害福祉課および医療機関や療育機関に配布し、家族エンパワメントを高めるためのヒントを当該家族とサービス提供者達に啓発していきたい。